

サビエル生誕五百年



巡礼の道

137

藤屋 侃士
(下松市幸ヶ丘)

天皇陛下の魚

シャンティ山口が支援している山岳少数民族モンの村は、タイ北部のバヤオ県にある。

その大きなバヤオ湖に面してセブンイレブンがあった。タイ北部の田舎にも日本のコンビニエンスストアがあるのに驚いて近づく

と、隣の店で鯛のような魚を焼いているのが見えた。

シャンティ山口の佐伯事務局長の説明ではこれは「テラピア」という魚で、日本の皇室

にもかわりがあるといふ。

調べてみるとテラピアの原産地はエジプトのナイル川で、タイでは「プラーニン」と呼ばれている。

今の天皇陛下は皇太子の時、タイを六回、訪問された。もともと日本の皇室とタイの王室は親しいが、皇太子がプミポン国王に会われた時「タイ国民はたん白質が不足気味」という話を聴かされたという。

皇太子は何か役立つことができないかと考え、バヤオ湖をはじめかんがい用の池がたくさんあることに注目された。湖や池で魚を養殖すれば、国民のたん白質不足を補うことができる。

皇太子はハゼ科魚類の論文をたくさん書かれた。魚には大変詳しく、暖かいナイル川に生息し、成育が早く、しかもおいしいテラピアがタイに最も適していると考え、一九六四年にタイを訪問された際に国王にプレゼントされた。

殿下の予想された通りテラピアはタイに適し、今では各地で養殖され、タイの人たちのたん白源になっている。何と素晴らしい話ではないか。日本の皇太子の発案が庶民の生活にも役立ち、両国のきずなを強く太くしたのだ。

焼き魚で売られているテラピア



連邦から養殖用として持ち込まれた。

日本では「イズミタイ」「チカダイ」と呼ばれ、加工食品で「白身魚のフライ」などに使われているそうで、テラピアとは知らずに食べている人が多いらしい。

テラピアはモンの貧しい学生たちのためにも役立っている。シャンティ山口が運営するシャンティ学生寮の前に池があり、岸边で網で囲ってプラーニンを養殖している。これは学生個人のもので、彼らは魚を売って小遣い

を得ている。

三十枚ぐらいのプラーニンは百五十バーツで、日本円で四百五十円くらい。これはバヤオ周辺の一日の労賃とほぼ同じである。

とにかく今の天皇陛下が皇太子の時にされたテラピアのプレゼントは支援、きずなづくりの最良のモデルに思えてならない。元日の一般参賀で手を振られる天皇陛下をテレビで見ながら、若き日の英断に拍手を送ったことだった。

（元山口放送取締役ラジオ局長）

週刊誌も皇室のつまらぬゴシップなどを書かず、こんな話を国民に知らせてほしい。テラピアをタイで言うプラーニンの「ニン」は明仁親王の「仁」からつけられた名前だという。

ところでテラピアが日本に入ってきたのは一九六二年で、アラブ



シャンティ学生寮前のテラピア養殖池